

令和元年度修了式（第三学期終業式） 校長講話

臨時休業中の浦商生の皆さん、こんにちは。元気に過ごしているだろうか。

このような挨拶をしなくてはならない状況に、大変悔しい思いでいっぱいである。本来であれば、三月十日に挙行された第七十二回卒業証書授与式では、皆さんとともに卒業生を送り出したかったところである。しかしながら、今般の新型コロナウイルスの拡大防止の観点から、卒業生と本校職員のみで卒業証書授与式を挙行した。事後報告となるが、二百六十七名の卒業生たちは「やがてぞ雄飛 活躍の わが旗印 かかげなむ」（校歌三番よりの）の矜持（「きょうじ」と読む。「プライド」のこと）をもって、立派に社会に旅立ったことを報告する。

ところで、皆さんは、現在、どのような生活を送っているだろうか。高校入試のための臨時休業（二月二十八日）から、そのまま新型コロナウイルス感染拡大防止の臨時休業へと突入した。我々教職員は、皆さんに十分な指示や指導を行う暇（いとま）もないうちに、「外出を避け、自宅にて学習や読書等を行うように」という指示を学校ホームページ上で発信した（二月二十九日）。

そのような中、三月二十三日（月）・二十四日（火）に、学年別で実施した「クラス別グループ別登校日」では、どうにか学年末・春季休業における指示を行うことができた。本来であれば、この時期は、一年間をともにした級友たちと一層の親睦を深めながら、一年間を振り返って次年度に取り組むべきことに対する決意を新たにする時である。ところが、この登校日では、クラスを二グループに分けたため、クラスの半分の級友たちとしか会うことができなかった。そこで、残りの半分の級友たちとは、新年度にぜひ挨拶や言葉かけを行ってもらいたい。

前置きが大変長くなったが、この新型コロナウイルスの感染拡大という未曾有（みぞう）の危機の中で行われる修了式において、私が皆さんに伝えたいことは次のとおりである。

それは、このような時だからこそ、「全体最適」の考え方のもと、社会を構成する人々の「納得解」をもって進むべき道をつくっていくべきということである。

「全体最適」とは、社会や組織におけるシステム（仕組み）全体が最大限に機能するように最適化されている状態を指す。社会や組織において「全体最適」の考え方が求められる理由は、それらのシステムを構成する部分同士が喧嘩をせず一体となって機能してこそ、目標実現が叶うからである。例えば、様々な分野の専門家を集めてアイデアを出し合っても、そのアイデア同士が互いの良さや強みを消し合ってしまったら全体としては優れたアイデアにはならない。今般の新型コロナウイルス感染症の拡大防止の議論において、この「全体最適」の考え方に基づかず、システムののある一つの部分のみが機能する「部分最適」の考え方に基づくと主張が多いことに不安を感じ得ない。

「全体最適」の考え方に基づくと議論は、議論する人々の「納得解」を生み出す。「納得解」とは、議論する人々が「ああ、なるほど」とか、「いいね」と思うような解である。議論においては、ややもすると自身が主張する「絶対解」を貫きたくなるところである。しかしながら、得られた解に人々の合意がなければ、つまり解が「納得解」でなければ、人々は解を実践する行動に関与しなくなるだろう。

新型コロナウイルスの感染拡大防止は、予断を許さないところである。この未曾有の危機が速やかに終息するように、「全体最適」の考え方のもと、「納得解」を生み出す議論や行動をしていきたい。

令和二年三月二十四日（火）

